

2025年1月21日  
株式会社 毎日放送

## 映像'25「ともに生きる～強度行動障害と家族～」 第27回ヤング映像クリエイターを励ます賞 優秀賞を受賞しました

日本映像事業協会が主催する「第27回ヤング映像クリエイターを励ます賞」において、当社報道情報局東京報道部・萩原大佑の下記の作品が優秀賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。

本賞は、日本映像事業協会の加盟社に所属する30歳以下のクリエイターの中から将来性ある新人を顕彰し、その育成と地位向上を目指す目的として創設されたものです。

### 【優秀賞】

番組名 映像'25「ともに生きる～強度行動障害と家族～」  
放送日 2025年10月26日(日)  
プロデューサー 和田 浩（報道情報局番組センター）  
ディレクター 萩原 大佑（報道情報局東京報道部）



### 「ともに生きる～強度行動障害と家族～」

長野県に暮らす蒲和美さん(52)と息子の涼太さん(28)。涼太さんには重度の知的障害に加えて、突然パニックを起こしたりする「強度行動障害」もあります。普段は優しい涼太さん。でもひとたびパニックになれば、激しく頭を壁や床に叩きつけ、和美さんが止めようとしてケガをすることもあります。和美さんは、愛する涼太さんに合わせる生活を28年間続けてきました。

こうした「強度行動障害」のある人は全国に12万人いるとされる一方で、障害者施設への入所は困難な状況です。積極的に受け入れを進める施設でも、待機者は130人以上。背景には、施設で支援する職員の数が足りない実情があります。

和美さんは、大人の年齢になった涼太さんが入所できる施設を探してきました。求め歩いて断られる日々はもう6年にもなります。激しいパニックへの対応を理由に受け入れ先が見つからないのです。「強度行動障害」のある息子との日々を世の中にわかってほしいと、和美さんが始めたYouTubeチャンネルには、「息子を見捨てるのか」「親の責任を果たせ」など、施設に預けること自体を否定する声もあがります。

そんな中、去年11月、和美さんの苦悩を知った障害者グループホームが涼太さんを受け入れることを申し出ました。ともに生きてきた28年、初めて別れることになった親と子。

その家族の姿から、強度行動障害のある子と親の人生を考えます。

### 【受賞者コメント】

取材を始めたきっかけは、私が大阪府警の捜査一課担当時代に起きた、施設に入所する強度行動障害のある人への虐待事件でした。なぜ、施設職員は虐待をしてしまったのか。強度行動障害を取り巻く支援の環境はどうなっているのか。取材を進めると、子の自立を望んでも入所できる施設が見つからず、苦悩する家族の姿が見えてきました。今回の賞に選んでいただいたことで、より多くの人にこの作品が届けば嬉しいです。

(ディレクター 萩原 大佑)

以上

本件問い合わせ先:コンプライアンス局広報部